ビスフェノールＡ（フェノール及びp―tert―ブチルフェノールを含む。）

⑴　検量線の作成

ビスフェノールＡ、フェノール及びp―tert―ブチルフェノールそれぞれ約10㎎を精密に量り、100mLのメスフラスコに採り、メタノールを加えて100mLとする。この溶液１mL、２mL、３mL、４mL及び５mLを採り、それぞれ20mLのメスフラスコに入れ、水を加えて20mLとし、これらを標準溶液とする（５μg／mL、10μg／mL、15μg／mL、20μg／mL及び25μg／mL）。標準溶液をそれぞれ20μLずつ用いて次の操作条件で液体クロマトグラフィーを行い、得られた液体クロマトグラムからビスフェノールＡ、フェノール及びp―tert―ブチルフェノールの各ピーク高さ又はピーク面積を求め、それぞれの検量線を作成する。

ただし、溶出試験用の検量線を作成する場合には、前記の標準溶液２mLずつを採り、それぞれ20mLのメスフラスコに入れ、水を加えて20mLとしたもの（0.5μg／mL、1.0μg／mL、1.5μg／mL、2.0μg／mL及び2.5μg／mL）を100μLずつ用いて、同様の操作によりそれぞれの検量線を作成する。

操作条件

ジフェニルカーボネートの操作条件を準用する。

⑵　試験

試験溶液20μLを用いて⑴　検量線の作成の場合と同様の操作条件により液体クロマトグラフィーを行い、得られた液体クロマトグラムから各ピーク高さ又はピーク面積を求める。それぞれの検量線を用いて試験溶液中のビスフェノールＡ、フェノール及びp―tert―ブチルフェノールの濃度を求め、次式によりそれぞれの材質中の含量を求める。

材質中の含量（μg／g）＝試験溶液濃度（μg／mL）×20（mL）／試料の重量（g）

ただし、溶出試験では試験溶液100μLを用いて同様に操作し、溶出試験用の検量線を用いて試験溶液中のビスフェノールＡ、フェノール及びp―tert―ブチルフェノールの濃度を求める。

フェノール

試験溶液20mLを採り、ホウ酸緩衝液３mLを加えてよく振り混ぜた後、４―アミノアンチピリン試液５mL及びヘキサシアノ鉄（Ⅲ）酸カリウム試液2.5mLを加え、更に水を加えて100mLとし、よく振り混ぜて室温で10分間放置する。別にフェノール標準溶液20mLを採り同様に操作する。波長510nmで吸光度を測定するとき、試験溶液の吸光度はフェノール標準溶液の吸光度より大きくてはならない。

ホルムアルデヒド

試験溶液10mLを採り、20％リン酸１mLを加えた後、200mLのメスシリンダーに水５～10mLを入れ、冷却器のアダプターが水に浸るようにして水蒸気蒸留を行う。留液が約190mLになったとき、蒸留をやめ、水を加えて200mLとする。この液５mLを内径約15㎜の試験管に採り、アセチルアセトン試液５mLを加えて混和し、沸騰水浴中で10分間加熱する。

別に水５mLを内径約15㎜の試験管に採り、アセチルアセトン試液５mLを加えて混和し、沸騰水浴中で10分間加熱したものを対照液とする。

両液を白色を背景として側方から観察するとき、試験溶液の呈する色は、対照液の呈する色より濃くてはならない。